地盤品質判定士会

九州支部が発足

支部長に笠間九大教授

地盤品質判定士会の九州支部が発足した。神奈川、関西、中部、東北、中国に次ぐ6番目の支部となり、会員110人でスタートを切った。7日に福岡市のJR博多シティ会議室で開かれた設立総会では、九大工学部土木工学科防災地盤工学研究室の笠間清伸教授が支部長に選出された。

笠間支部長は「2015年の判定士会発足後も熊本地震や九州北部豪雨などが発生し、地方自治体からの協力要請が増えた。九州ではこれまで、熊本地震対策部会を中心に自治体や住民の要請に応えてきたが、全九州に対応するために九州支部を設立する」と設立趣旨を説明した。その上で、「地域密着型の活動と地盤の安定評価方法の平準化・高度化、会員の情報交換を図り、地盤の健全性評価を通じて、宅地災害の防止・抑止、被災後の復旧・復興を支援する」と協力を求めた＝写真。

支部長以外の役員は、副支部長に田上裕基礎地盤コンサルタンツ顧問、幹事長に奈須徹夫ワイビーエム企画部長、技術委員長に内野隆文カミナガ技術企画室長、広報委員長に高倉功樹エポコラム機工専務らが選ばれた。事業計画では、地盤評価に関する公益事業の推進や福岡で開かれる地盤工学研究発表会への参画などを予定している。安福規之九大工学研究院教授による「九州での地盤災害調査の経験と地盤品質判定士について思うこと」と題した基調講演も行われた。